

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072500776		
法人名	医療法人 円会		
事業所名	高森町 グループホーム大家族		
所在地	長野県下伊那郡高森町牛牧2467番地2		
自己評価作成日	平成28年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=t_rue&ligvosvoCd=2072500776-00&PrefCd=20&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所		
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5		
訪問調査日	平成28年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気の良い日には散歩に行き、季節を肌で感じていただいている。生活リハビリを主としてご本人のできることを探し、行っていただくことにより、それを役割として感じ、満足感を得られるように支えている。利用者様にそのつど丁寧な関わり方で受け答えられるよう介護職員は認知症の理解を深め、穏やかな環境を整える視点と利用者様の言動や気持ちを理解しようと「受容」「共感」する関わり方を心がけている。安心して聞いてもらえるという関係づくりで寄り添う介護を行っている。介護度の変化は穏やかである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

外部評価を依頼されてから5年間継続してこのグループホームに関わってきてみると、次のような点で地道な成果を上げてきている。
 まず第一に、理念を見直し、その基本方針ともいえる介護方針を打ち立ててきたことである。その結果、理念を基に、どのような介護を目指していくのか明確になってきたことである。自立支援のためのリハビリ体操の工夫や個人カルテの記入方法の工夫などがある。
 次に、地域に開かれたグループホームにしていけるために、地域の保育園との交流を始めたり、地域の文化祭に参加したりして、地域の方々の理解や協力を得てきたことである。
 さらに、運営推進会議を開催し、その話し合いの内容をいろいろ工夫し、推進してきたことである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目		項目	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (11, 12)	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない			

(別紙)

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族や地域住民との融和を大切に、開かれたホームづくりに努めている。日々のサービスの提供場面を振り返り、利用者様の希望やその人らしさがケアに反映されているか確認している。	第1の理念の「自立支援」をさらに充実するように、介護計画と「介護記録」(個人カルテ)とが関連付けられるように見直し、日々の記録を詳細にとっていくことが介護計画の具体的な評価になるように工夫してきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩にでかけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり話をしたりしている。保育園児との交流の中では、昼食会に招待していただき保育園に出かけることができた。「牛牧ふれあい広場」にも継続的に参加することができている。	グループホームの周りを散歩して、畑仕事をする方や加工工場の方とも親しくなったり、近くの特別養護老人ホームに巡回図書館の本を借りに行ったりして、その利用者や職員と話をしたりして、地域の方とのつきあいが広がってきた。また、保育園児との交流では利用者一人ひとりが担当の園児たちとプレゼント交換したり、歌を歌ったりしてさらに楽しく交流ができています。地域の「牛牧ふれあい広場」や法人内の「かない原祭」への参加、県看護大学の実習生の受入れも定着してきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の状況、毎日の生活、サービス、事故等について報告をした。今年度は認知症の勉強会を3月18日に行う予定。資料づくり等で職員の勉強にもなっている。	本年度は、6回の運営推進会議を開くように進めてきている。その内容も、活動報告だけでなく、配ぜんの様子見学と試食会、避難訓練の見学、リハビリの見学と利用者との交流、おやつ作りと交流、認知症についての勉強会と様々な内容があり、それらの実際を知ってもらい、話し合いが深まってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	同一法人の介護老人保健施設を通して、町の担当者と連絡をとっている。	組織として同一法人の介護老人保健施設の担当者を通して、町の担当者と入居状況などの連絡をとっているが、運営推進会議に町の担当者の参加を毎回得ることができ、情報交換が直接できるようになってきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなくさりげなく声をかけたり、一緒について行ったりする等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	現在身体拘束の事例はない。同一法人の介護老人保健施設で行う、身体拘束のないケアや虐待防止の学習会(対応の仕方・言葉の暴力など)に職員は交代で参加し、研修を積んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアについて話し合ったりして、決してしないという確認をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加し、職員に伝達しているが、職員の研修はまだ十分でない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を基に説明している。特に起こりうるリスク、契約の解除については詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。そして、現在の利用者様の心身状態について報告し、ご家族の要望に耳を傾けて、日々のケアに活かせるよう努力している。	運営推進会議には家族代表の参加はあるが、家族に遠方の方が多く、家族会を開くまでには至っていない。家族の訪問時には気楽に声をかけ、話しやすい雰囲気づくりをしている。	家族の意見を反映できる方策を考えたり、利用者と話し合う機会を設けたりして、広く運営に反映することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会・ケア部会で職員の要望や意見を聞き、話し合っている。	管理者が司会、職員が交代で書記という役割で、月1回の職員会・ケア部会を開き、話し合っている。管理者が職員の普段の意見を全体のものとして反映してくれるので、話しやすいと職員は語っていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同一法人の介護老人保健施設と同様、必要に応じて人事考課や苦慮していることなどを聞き、状況に応じて職員配置や職場環境改善等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の学習会には必ず参加している。また法人全体で組織している委員会へ参加しており、他職員との情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に1回参加した。他のグループホームと交流して当グループホームのケアについて考える機会をもつようにしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するように努め、入居時に希望をお聞きして、ご本人が求めている事を把握し、聞いてもらえるという事から信頼関係を深めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症で困っている事をお伺いし、少しでも症状が和らぎ改善できるように働きかけ、要望が言いやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ソーシャルワーカーが在宅のケアマネジャーと相談しながら訪問したり、事業所見学を受け入れたりして、徐々に馴染んでいくように柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に仕事(食器洗い、掃除等)をして「ありがとうございます」と労いの言葉や感謝の気持ちを表現している。自分の存在を認めてくれる人がいることを認識して充実感や満足感を得てもらえる機会をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時に利用者様の様子や職員の思いを伝えることでご家族と職員の思いが徐々に重なり、ご本人を支えていくための協力関係が築ける事が多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来ていただいて話をしたり、また、お正月やお盆には自宅に帰ったり、兄弟の家に定期的に外泊したりして、関係が継続できるよう支援している。	訪問記録を見ると、家族や親戚はもとより、近所の方や訪問理容の方と多くの訪問客が見られる。また、お正月やお盆には実家に外泊したり、兄弟の家に外泊したり、外食をしたり、美容院や理髪店に通う利用者もいたりして、利用者や家族の要望に応えるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係については情報提供し、すべての職員がケアプラン等で共有できるようにしている。また心身の状態や気分や感情で日々変化することもあるので、職員が調整役となって注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合アセスメント、ケアプランや支援状況等を手渡すと共に、情報交換を行い馴染みの職員が機会をつかって訪問に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者様との会話の機会をもち、言葉や表情などから、その意思を推し測ったり、役割が負担になっていないか確認したりするようにしている。	日々の利用者との会話などの関わりを大事にして、その言葉や表情から利用者の一日の活動の様子を介護記録(個人カルテ)に記入し、利用者の「自分でできそうなこと探し」をして、介護計画の目標づくりに役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人が安らかに、また有する力を発揮しながら自分らしく暮らしていくことを支援するために、ご本人、ご家族の力を借りこれまでの暮らしの把握を継続的に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活のリズムを理解するとともに、行動や小さな動作からご本人のできる力、分かる力を暮らしの中で発見し、その人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換をして認知症の方の現状の意味するところをどのように捉えるのかを考えケアに活かしている。	利用者一人ひとりに担当者を決め、介護計画を立て、サービス担当者会議で話し合い、見直している。その際、介護計画における課題とサービス内容についての介護記録(個人カルテ)の評価の記入を基に、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者様の状態変化は個人カルテに記載し、職員間の情報共有を徹底している。また個人カルテを基に介護計画の見直し評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望に応じて訪問理容や移動図書館(月2回)を利用してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの利用前の受診の経過や現在の受診の希望を把握して、今までのかかりつけ医に受診となっている。ご家族の希望により往診の支援も行っている。歯科医も必要に応じて往診してもらっている。	利用者のこれまでのかかりつけ医の受診を支援している。また、家族の要望により往診も支援している。月2回、同一法人内の訪問看護ステーションからの訪問看護があり、健康チェックを行い、利用者の健康安全に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。同一法人の訪問看護ステーションによる月2回の定期訪問があり、バイタルチェック等の情報収集をしてもらっている。看護職員がいない時間には訪問看護ステーションに相談し対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、入院中に訪問しながらご家族やソーシャルワーカーとも回復状況等の情報交換し、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のご本人やご家族の意向をふまえ、同一法人の介護老人保健施設の医師と連携をとって事業所ができるケアを確認し取り組んでいる。	入居時に利用者が重度化した場合の対応について話し合いを継続している。万一、重度化して他の施設での治療等が必要であると考えられる場合は、家族の意向を踏まえ、同一法人の介護老人保健施設の医師と連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同一法人の介護老人保健施設の勉強会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者様とともに避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。今年度は運営推進会議のメンバーにも見学してもらい、意見や感想を出してもらった。次回の訓練に活かせるよう検討した。	8月と3月の年2回、同一法人の介護老人保健施設と連携して防災訓練を行っている。8月の防災訓練は、夜間出火想定のお知らせ・避難訓練で、利用者・職員・同一法人の介護老人保健施設職員の参加のもと、運営推進会議のメンバーに見学してもらい、その後の話し合いでいろいろな意見を伺い、今後の防災訓練に活かすように検討してきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時もご本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉かけをしたりするよう努めている。	理念に掲げてあるように、利用者一人ひとりの自立支援を目指して、人間の尊厳性に根差したケアを行うようにしている。そのために、利用者に行動を促す場合には、「～してもらえませんか」と利用者の自己決定を大事にし、利用者が断ってもまだ他の方法が考えられるような、余裕をもった言葉かけや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせて声かけをして、あせらないようゆっくり接することを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時のご本人の気持ちを尊重し、一日の中で自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、朝の着替えは、基本的にご本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定がしにくい利用者様には職員と一緒に考え、ご本人の気持ちにそった支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、盛り付け、お茶入れ、片付け等を利用者様とともに行い、利用者様と職員とが同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう、雰囲気づくりも大切にしている。月1回は外食又はお弁当や出前を頼んで、いつもと違う雰囲気を楽しんでいただいている。	利用者の個性を活かし、喜んでできる仕事を職員と一緒に分擔し、準備や後片付けを行っている。また、利用者と職員は同じテーブルを囲み、季節の話題などのおしゃべりを交わして皆が盛り上がる場面も見受けられた。利用者には話しかけるとよく受け答えがあり、楽しい会食ができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の介護老人保健施設の管理栄養士の立てた献立を提供して、一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。また、嗜好品や食べやすいもの等でいろいろ工夫している。水分摂取量の少ない方には好みのスポーツ飲料水を提供して水分摂取量に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ見守りをして口腔ケアをしている。夜間は入れ歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

グループホーム 大家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者様の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて支援している。トイレでの排泄を大切にしながら失禁があってもおむつの使用を考える前に、下着を気軽に何度でも交換できるよう、居室に洗濯物を入れるバケツを用意して自立支援を行っている。歩行に不安のある方には、ポータブルトイレを設置してあるが、夜間のみ使用している。	利用者一人ひとりの自尊心を大切に、排泄の自立支援を目指している。失禁すれば気持ちが悪くなるから自分でパンツを着替えて、汚れたパンツを洗うためのバケツに入れる、というように利用者が気軽に何度でもパンツを交換でき、洗濯できるような環境づくりをしている。さらに、自分で干して畳める快適な生活ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩と水分補給の徹底を行い、便秘対策に取り組んでいる。排泄パターンの記録をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴がテレビ、体操の時間に重ならないでほしいとの希望がある。タイミングを合わせて入浴を楽しんでもらっている。入浴後は身体にクリームを塗布して保湿に努めている。	週2回、午前と午後に利用者のタイミングを見て、入浴支援をしている。入浴を好まない利用者には「フロリダに行きましょう」と冗談を言いながら誘ったりして、対応している。一部介助・見守りの必要な利用者がある。また、入浴後身体にクリームを塗るなどして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のペースで午睡したり心地よく眠ったりできるように、日中の活動に配慮している。眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになってないかを確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに処方箋のコピーを整理し職員が把握できるようにしている。服薬の変更時には利用者様の様子に注意し、受診時に看護師が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分らしく過ごせる時間を大切に、ゆったりとした時間の流れの中で認知症の症状に応じた個別ケアを提供してそれが役割や喜びとなるよう、できることを探すケアを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普段はグループホームの周りを散歩したり、外で日光浴をしたりして気分転換をしている。また、職員と一緒に車で食材の買出しに行ったり、近隣の特別養護老人ホームへ来た移動図書館に本を借りに行ったりしている。利用者様は年4、5回の普段とは違う外食を楽しみにしている。ご家族と月1回外食を楽しむことができている利用者様もいる。	ほとんどの利用者は、山麓にあるグループホームの周りを散歩したり、玄関の前で日光浴をしたりして外出を楽しんでいる。また、利用者の希望にそって、月2回の移動図書館の本を借りに行ったり、車に乗って食材の買出しに行ったりすることができるように支援している。いろいろな行事のあるつど外出して交流したり、外食して楽しんだりしている。	

グループホーム 大家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て事業所が管理している。職員と一緒に出かけ菓子、本等を買う事ができている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・友達に近況報告(手紙)をするお手伝いをしている。電話をしたいという方にもご家族の了解を得て電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは床暖房で冬も快適に過ごせるようになっている。フロアの飾り付けや家具の配置は利用者様と一緒に考えて、自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしている。五月人形、お雛様、花を飾って季節を感じていただけるようにしている。	グループホームの南に面したリビング兼食堂はとても広くてゆったりとしている。利用者のほとんどが一日の大半を過ごすこの場では、利用者同士が語り合ったり、テレビを見たりするだけではなく、筋力維持のために皆でいるいろなりハビリ体操をする場でもある。地域との交流の写真・プレゼントや利用者の作品などが掲示されていたり、花や人形が飾られたりしていて、季節や生活が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	図書館から借りた本を自由に選んで見るスペース、窓際に椅子を置き外の様子を眺めるスペースがあり居心地の良い空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やご家族の写真等を持ち込んでいように、それぞれの利用者様の居心地の良さに配慮している。	自分の居室は職員と一緒に自分で掃除するよう、利用者の日程表が組まれ、整理・整頓された居室になっている。また、利用者が借りてきた本や、練習しているドリルなどが持ち込まれ、利用者の大切にしている家具などが置かれ、自分の時間を過ごしたり、訪問してきた方と話したりすることができるこぎれいな空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わったり新たな混乱や失敗、事故が生じたりした時は、そのつど職員で話し合い、ご本人の不安、混乱材料を取り除き、自分らしく過ごせる時間がもてるよう支援している。		